令和５（2023）年度第２回みよし市食育推進会議次第

日時：令和５（2023）年１１月１５日（水）
午後３時から
場所：ふれあい交流館１階　１０２会議室

１　あいさつ

２　議題
（１）アンケート調査結果について

（２）第４次食育推進計画の骨子（案）について

３　その他

次回会議予定：令和５（2023）年１２月下旬

みよし市食育推進会議委員名簿

役　職	氏　　名	摘　　要
会　長	村田　信光	副市長
委員	加藤　知子	みよし市教育委員会委員代表
	豊川　幸子	あいち豊田農業協同組合代表
	小野田　加代子	みよし市農村生活アドバイザー代表
	小野田　勝輝	農業生産団体代表（果樹組合）
	雪江　惠子	食生活健康推進員会代表
	青木　正也	商工会代表（食品部）
	安江　将吾	みよし市小中学校ＰＴＡ連絡協議会代表小学校（北部小学校）
	奥村　真由美	小中学校教頭代表（天王小学校）
	林　晴子	保育園代表（みどり保育園）
	堀本　さなえ	みよし市私立幼稚園協会代表（三好文化幼稚園）
	宮﨑　真希子	市立保育園父母の会代表（すみれ保育園）
	岩下　智沙	みよし市私立幼稚園協会母の会代表（三好文化幼稚園）
	柘植　知則	愛知県立三好高等学校代表（教頭）
	新谷　千晶	ＮＰＯ代表
	小川　雄二	学識経験者（名古屋短期大学教授）
	兼平　奈奈	学識経験者（東海学園大学准教授）
	増岡　庶	公募委員

助言者	林　禎二	豊田加茂農林水産事務所 農政課長
助言者	杉原　孝子	衣浦東部保健所 健康支援課長
助言者	近藤　貴子	栄養教諭代表（北中・学校給食センター）
助言者	野々山　紘美	保健師代表（保険健康課）

アンケート結果

（１）調査の概要

①調査目的

本調査は、「第３次みよし市食育推進計画」の進捗状況を評価するとともに、「第４次みよし市食育推進計画」の策定のための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

②調査対象

園児・小学２年生：みよし市に通園している保育園児・幼稚園児（年中児）とみよし市内の小学２年生の保護者

小学５年生・中学２年生：みよし市内の小学５年生、中学２年生

高校生：みよし市内の高校２年生

一般：みよし市在住の 18 歳以上

③調査期間

令和５年９月

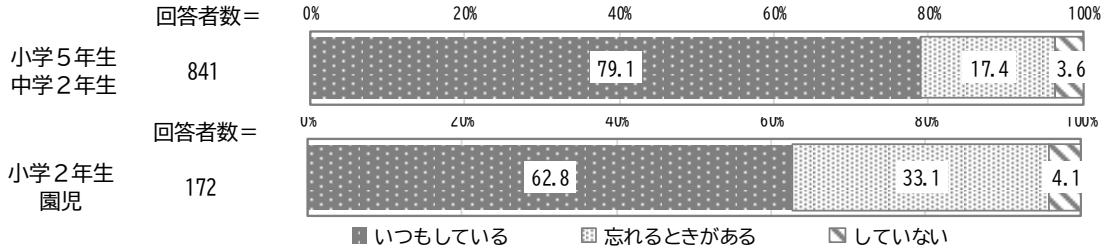
④調査方法及び回収状況

対象		調査方法	対象者数	有効回答数	有効回答率
園児・小学２年生		ＷＥＢ調査	1,088 件	172 件	15.8%
小学５年生・中学２年生		ＷＥＢ調査	1,183 件	841 件	71.1%
高校２年生		ＷＥＢ調査	269 件	216 件	80.3%
一般		ＷＥＢ調査 郵送（６０歳以上は郵送でも回答できる形式）	計 1000 件	345 件	34.5%
再掲	18 歳以上 69 歳以下		854 件	258 件	30.2%
	70 歳以上		146 件	87 件	59.6%

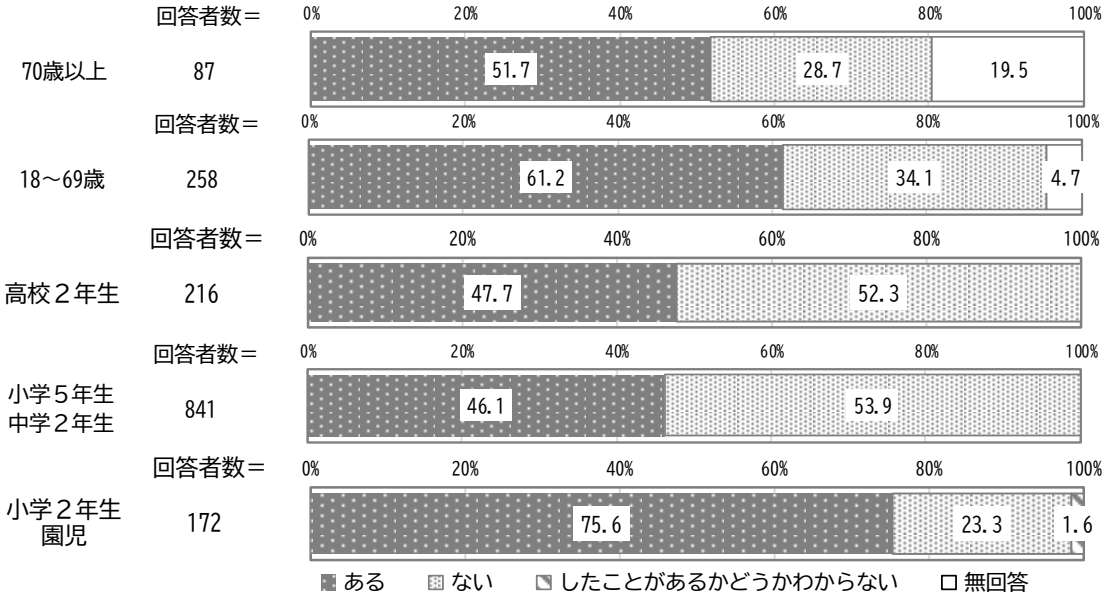
（２）調査結果（一部抜粋）

基本目標１　～人づくり～　食の大切さや、楽しさが分かる心豊かな人を育てます

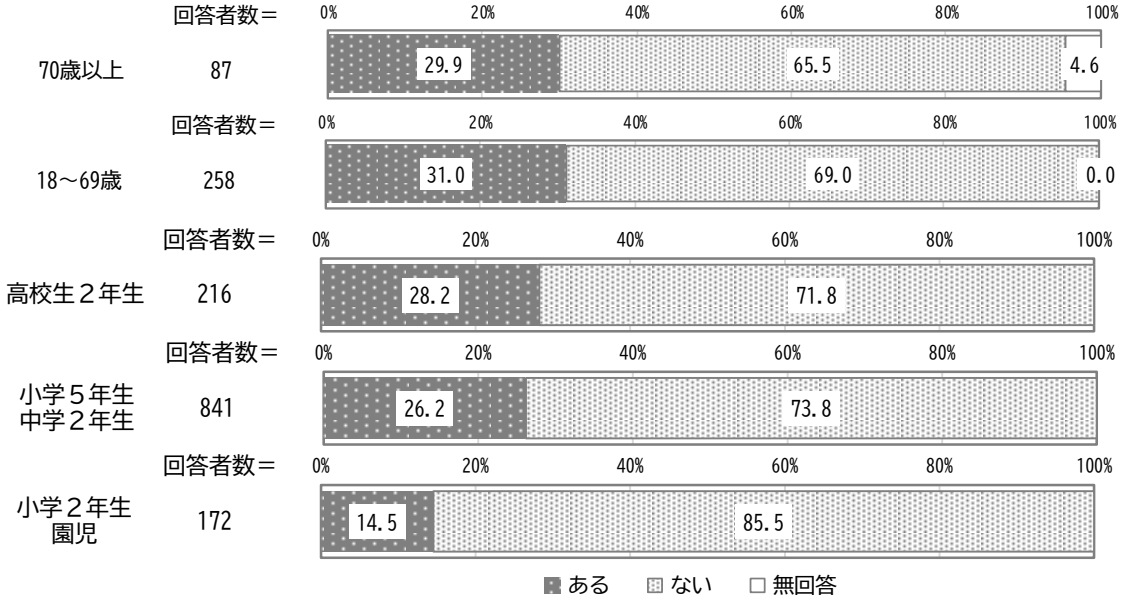
①「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする人について



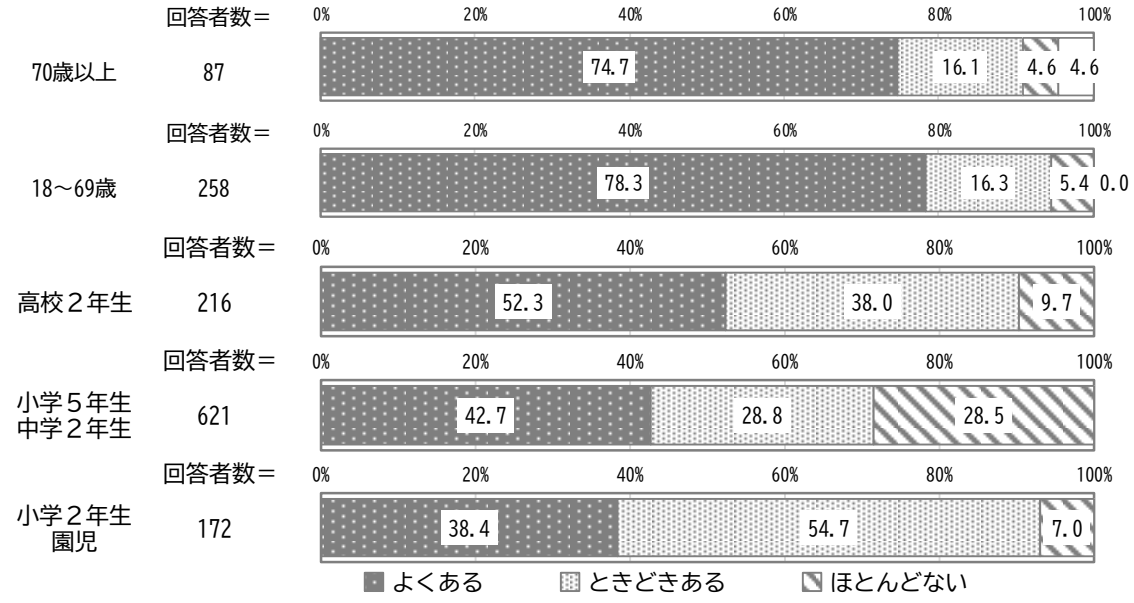
②農作物の栽培体験をしたことがある人について



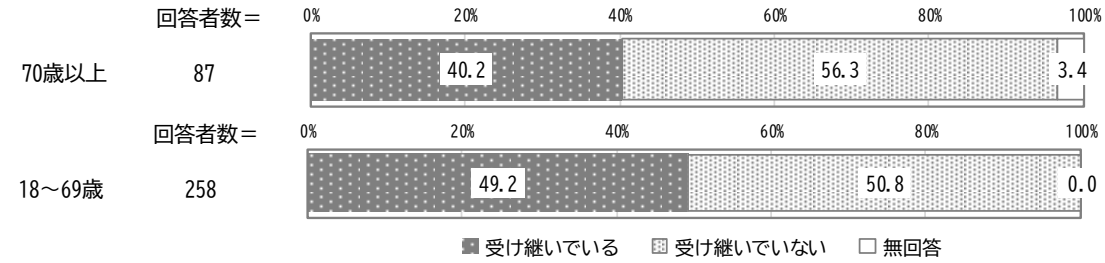
③-1 料理教室に参加したことがある人について



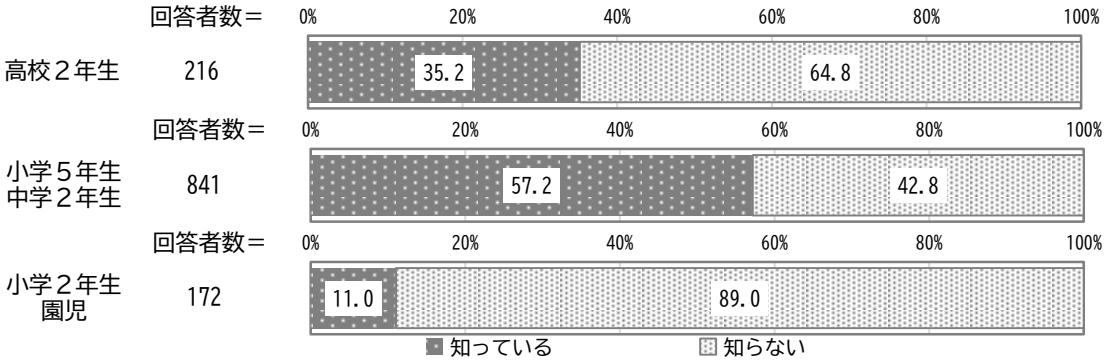
③-2 料理の手伝いをすることがある人について



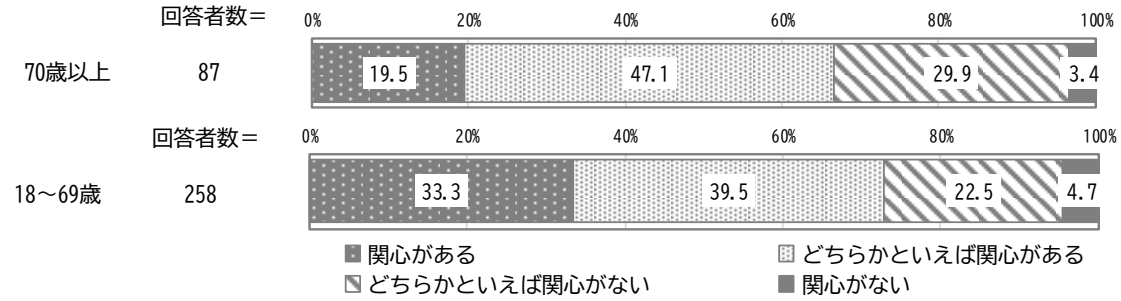
④-1 郷土料理を受け継いでいる人について



④-2 郷土料理を知っている人について

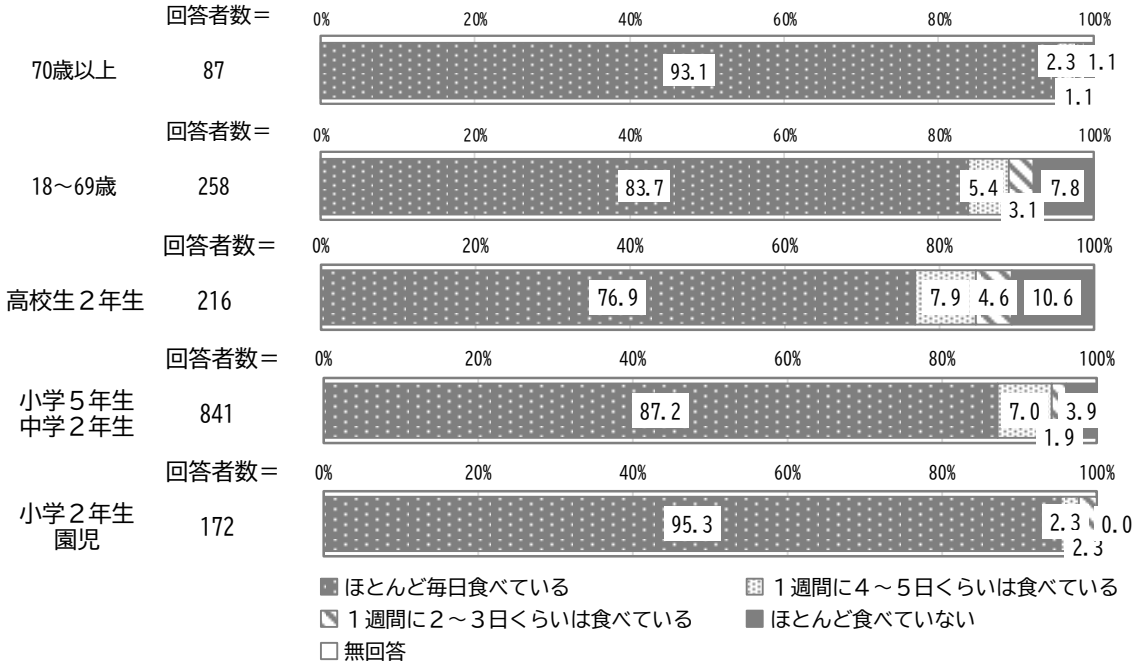


⑤食育に関心がある人について

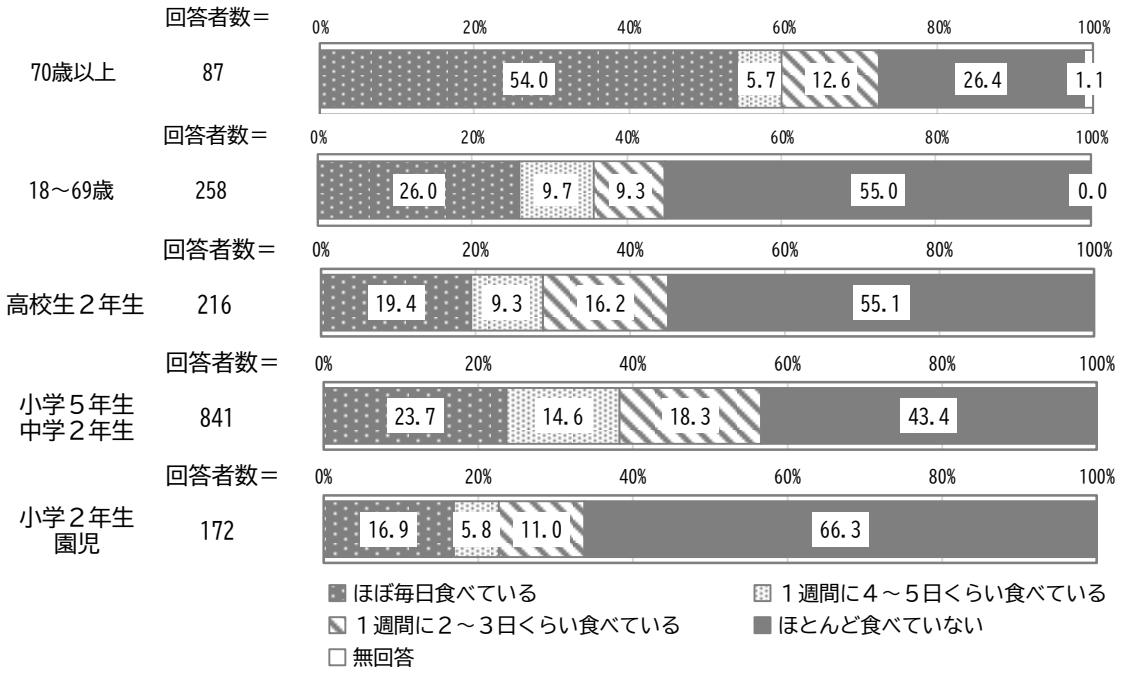


基本目標２ ～健康づくり～ 食を通して、健康な体を育みます

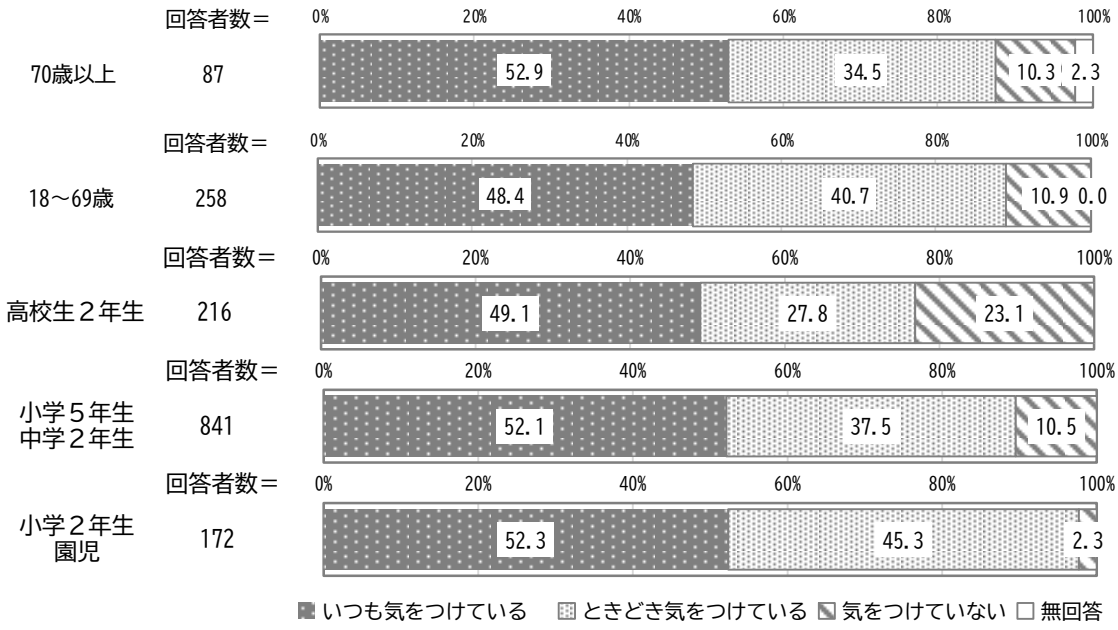
⑥朝食の欠食割合について



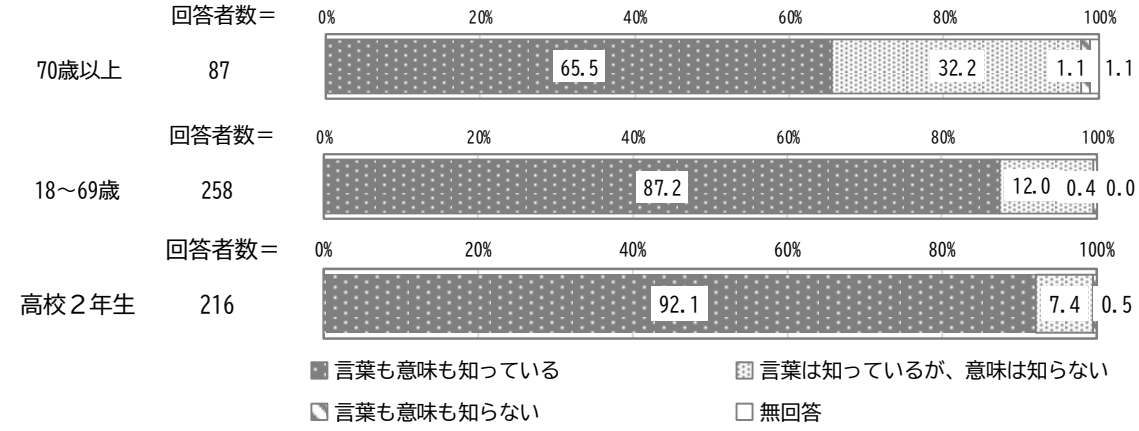
⑦朝食に野菜をたべている人について



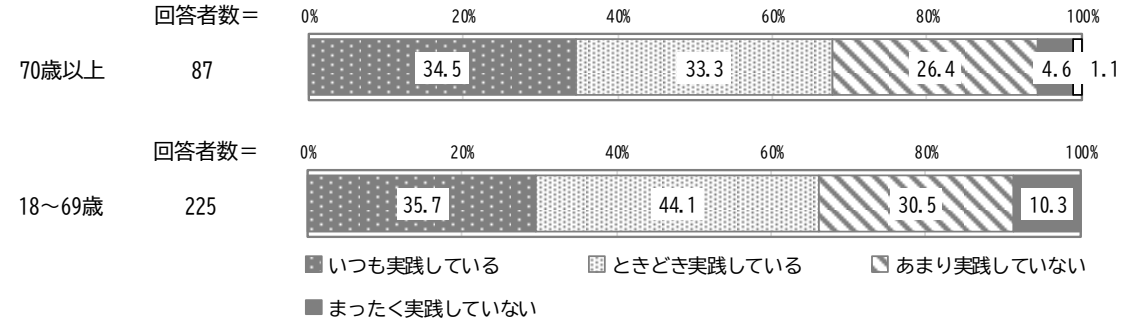
⑧食事の栄養バランスに気を付けている人について



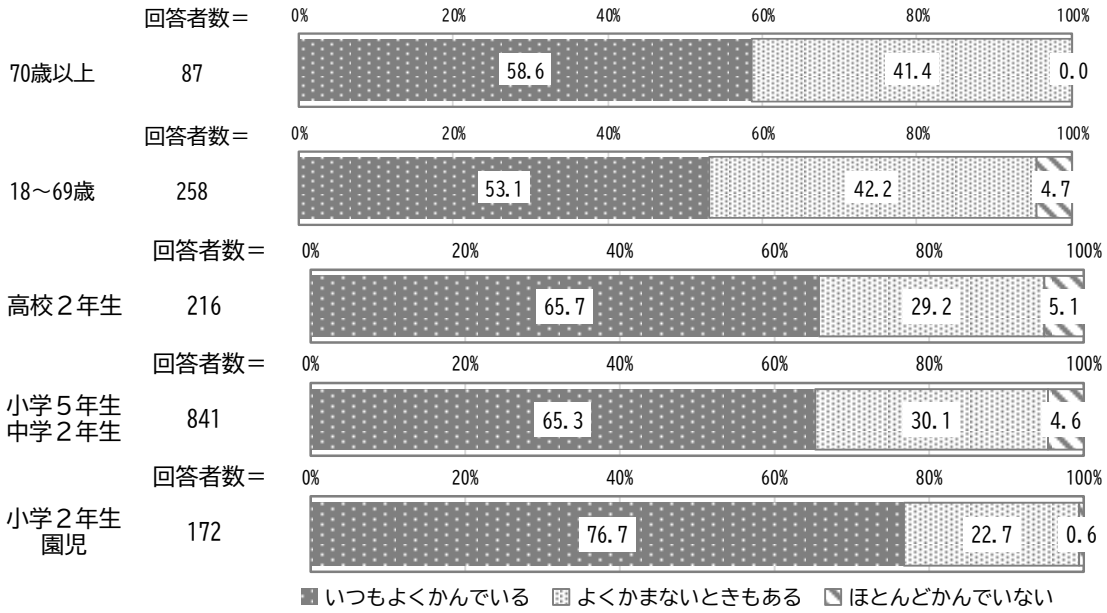
⑨生活習慣病の認知度について



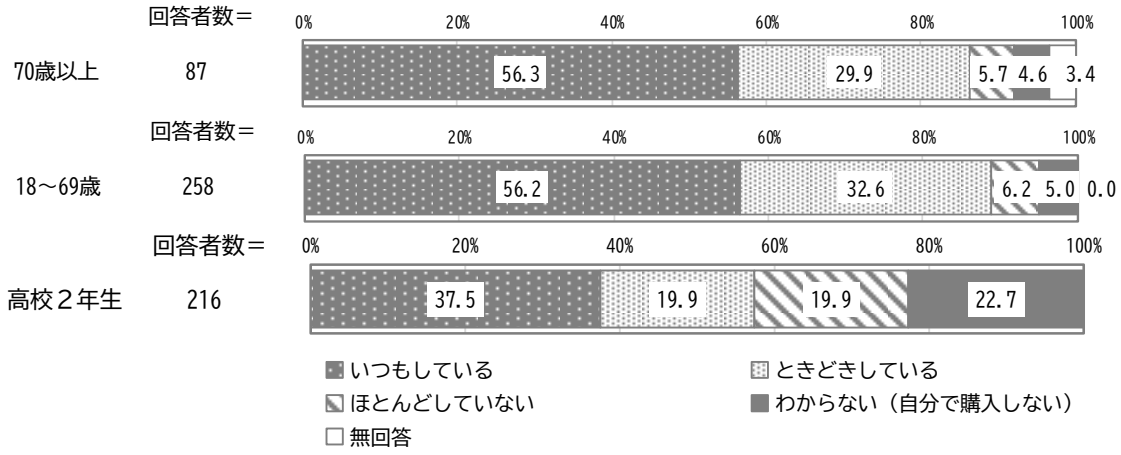
⑩　自分の適正体重を維持する食事量を理解し実践している人について



⑪よく噛んで食事をする人について

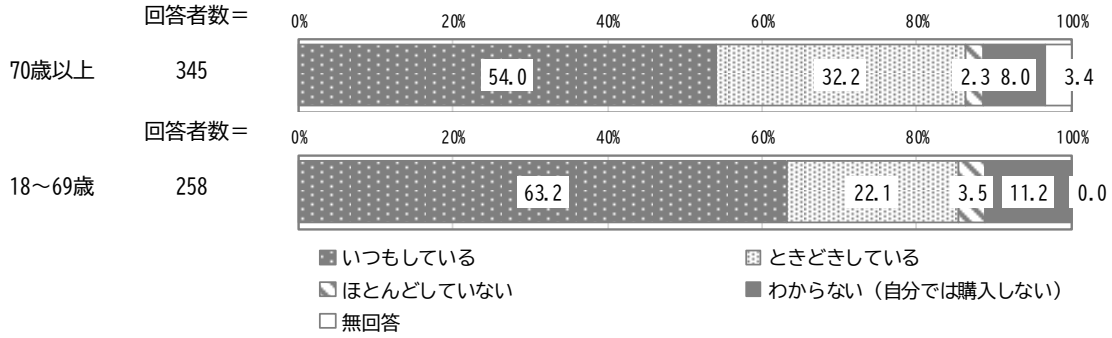


⑫買い物時に食品表示を必ず確認する人について

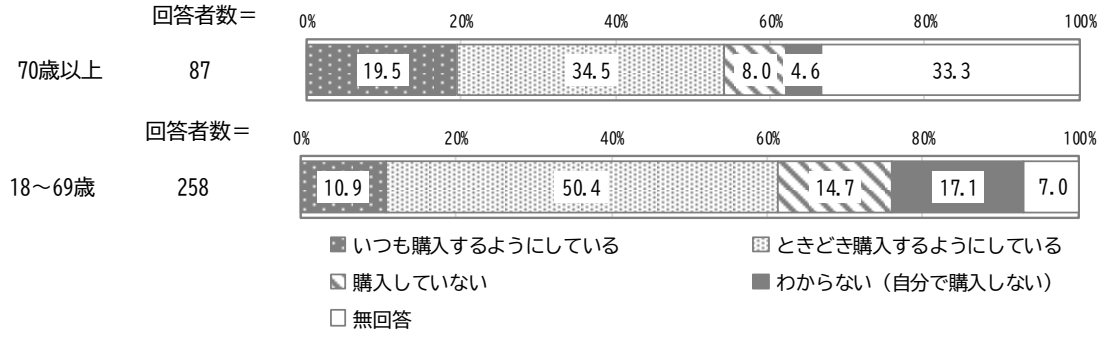


基本目標３ ～環境づくり～ 食を通して、食に関する環境を整えます

⑬無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人について



⑭地元食材をいつも購入するように努めている人について



第３次みよし市食育推進計画の評価

「第３次みよし市食育推進計画」の目標項目について、達成したものをA、目標値を達成していないが、当初値に比べ改善したものをB、当初値に比べ悪化したものをC、評価不能項目を D とし、評価を行いました。

また、C 評価の項目を中心に、設問をかけ合せて集計をするクロス集計を行い、要因や課題を整理しました。

基本目標１ ～人づくり～ 食の大切さや、楽しさが分かる心豊かな人を育てます

「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする人の割合は増加しています。また、農作物の栽培体験では 18 歳以上、高２、小２園児で、料理教室（料理の手伝い）については、18 歳以上、高２で改善がみられました。また、食育に関心がある人の割合や食育ボランティアの活動者数、食育の普及に関する事業・活動数が減少しており、農作物の栽培や料理の機会等、食に関する活動等を通じて、食育への関心を高めていくことが重要です。

基本施策	目標項目	種類	18歳以上	高2	中2 小5	小2 園児
（１）食の正しい知識を身に付け、食に対する感謝の心を持つ心豊かな人間性の育成	①「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする人を増やす	当初値（H30）			70.9%	58.2%
		目標値（R5）			80.0%	70.0%
		現状値（R5）			79.1%	62.8%
		評価			B	B
（２）楽しい食事の場づくりの大切さの周知	②農作物の栽培体験をしたことがある人の割合を増やす	当初値（H30）	47.7%	54.2%	58.0%	71.2%
		目標値（R5）	60.0%	70.0%	70.0%	80.0%
		現状値（R5）	58.8%	62.1%	46.1%	75.6%
		評価	B	B	C	B
（３）農作物の栽培や料理教室など、体験型の学習や交流を通じた食への理解促進	③料理教室（料理の手伝い）に参加したことがある人の割合を増やす	当初値（H30）	27.3%	15.4%	42.3%	37.7%
		目標値（R5）	40.0%	30.0%	55.0%	55.0%
		現状値（R5）	30.7%	28.2%	26.2%	14.5%
		評価	B	B	C	C

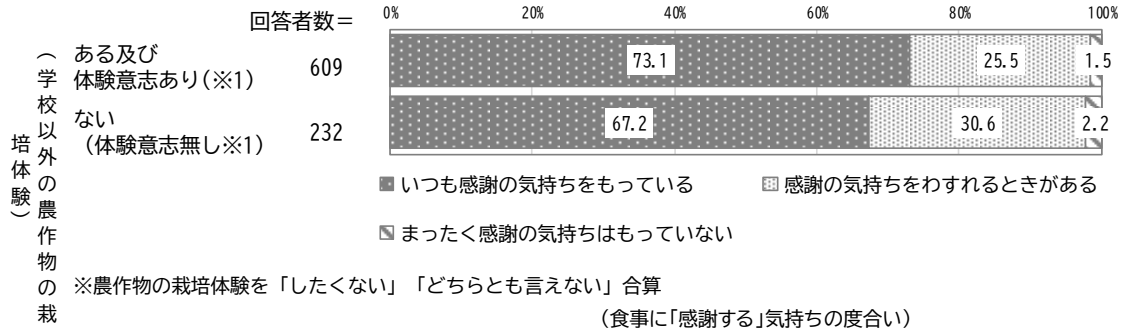
基本施策	目標項目	種類	18歳以上	高2	中2 小5	小2 園児
（４）食文化や郷土料理等の理解と継承	④郷土料理等を受け継いでいる(知っている)人の割合を増やす	当初値（H30）	43.7%	17.2%	38.8%	6.2%
		目標値（R5）	60.0%	30.0%	50.0%	10.0%
		現状値（R5）	47.0%	35.2%	57.2%	11.0%
		評価	B	A	A	A
（５）食育を広めるための人材育成や関係者との連携強化	⑤食育ボランティアの活動者数を増やす	当初値（H30）	94			
		目標値（R5）	160			
		現状値（R5）	64			
		評価	C			
	⑥食育の普及に関する事業・活動数を増やす	当初値（H30）	102			
		目標値（R5）	116			
		現状値（R5）	96			
		評価	C			
（６）食育に関する情報提供や普及啓発	⑦食育に関心がある人の割合を増やす	当初値（H30）	72.2%			
		目標値（R5）	80.0%			
		現状値（R5）	71.3%			
		評価	C			

○ 農作物の栽培体験や料理教室（料理の手伝い）の参加状況

食事に感謝する気持ちの度合いと農作物の栽培体験や手伝いの有無をみると、農作物の栽培体験がある人や体験してみたい人は、体験がなく体験の意志もない人に比べ、「いつも感謝の気持ちを持っている」人の割合が高くなっています。農作物や食事など食を作るといった経験により、食への感謝の気持ちを育むことができると考えられ、こうした食を作るといった体験ができる機会を充実することが必要です。

食事について「感謝する」気持ちの度合いと
学校以外の場所での農作物の栽培体験や手伝いの有無について

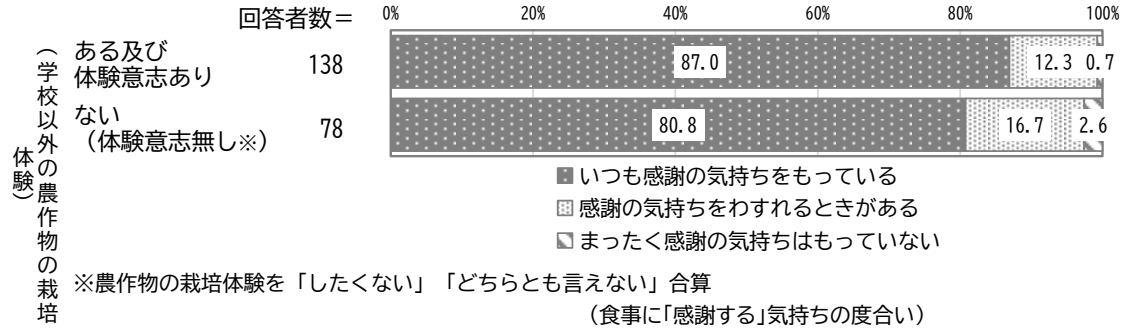
＜小学５年生、中学２年生＞



※農作物の栽培体験を「したくない」「どちらとも言えない」合算

（食事に「感謝する」気持ちの度合い）

＜高校生＞

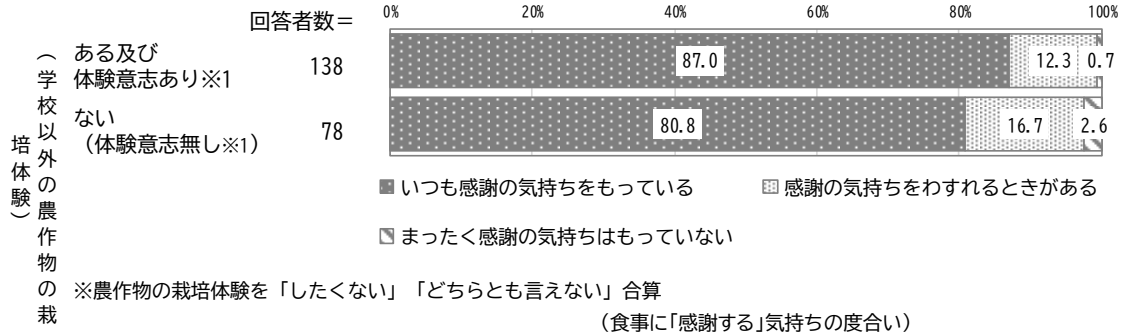


※農作物の栽培体験を「したくない」「どちらとも言えない」合算

（食事に「感謝する」気持ちの度合い）

「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつの頻度と
親子や個人での料理教室への参加有無について

＜高校生＞



※農作物の栽培体験を「したくない」「どちらとも言えない」合算

（食事に「感謝する」気持ちの度合い）

※1 「ある及び体験意思あり」は、『体験したことがある』を選択した人と、『体験したことはない』かつ、『体験があれば参加したい』を選択した人の合算であり、「ない」は『体験したことがない』かつ、『機会があっても参加したいと思わない』『機会があったら参加したいかわからない』を選択した人の合算です。

基本目標２ ～健康づくり～ 食を通して、健康な体を育みます

朝食の欠食は、18 歳以上では改善が見られましたが、学齢期は悪化しています。朝食における野菜の摂取、食事の栄養バランスに気を付けるなど、バランスのとれた食生活については改善傾向にあります。また、適正体重を維持する食事量の理解やよく噛んで食べる、食の安全に関する項目は改善しています。特によく噛んで食べることは目標値を達成しました。

日ごろの食生活の乱れや栄養の偏りは、肥満や生活習慣病の一因となっており、バランスのとれた食生活を送ることが重要です。

基本施策	目標項目	種類	18歳以上	高2	中2 小5	小2 園児
（１）バランスのとれた規則正しい食生活の実践	⑧朝食の欠食割合を減らす	当初値（H30）	10.4%	10.3%	4.5%	1.8%
		目標値（R5）	7.0%	5.0%	3.0%	0.0%
		現状値（R5）	8.7%	15.2%	5.8%	2.3%
		評価	B	C	C	C
	⑨朝食に野菜を食べている人の割合を増やす	当初値（H30）	28.4%	19.0%	25.1%	13.9%
		目標値（R5）	50.0%	40.0%	40.0%	40.0%
		現状値（R5）	33.0%	19.4%	23.7%	16.9%
		評価	B	B	C	B
	⑩食事の栄養バランスに気を付けている人の割合を増やす	当初値（H30）	45.5%	25.6%	36.7%	57.3%
		目標値（R5）	60.0%	50.0%	60.0%	70.0%
		現状値（R5）	49.6%	49.1%	52.1%	52.3%
		評価	B	B	B	C
（２）望ましい食習慣を身に付け、過度な痩身と肥満や生活習慣病の予防	⑪肥満者の割合を減らす	当初値（H30）	12.4%	7.8%	小5男6.2% 小5女5.2% 中2男4.1% 中2女5.6%	
		目標値（R5）	8.0%	5.0%	5.0%	
		現状値（R5）	16.8%	男12.3% 女7.6%	小5男6.8% 小5女9.3% 中2男8.0% 中2女8.4%	
		評価	C	C	C	

基本施策	目標項目	種類	18歳以上	高2	中2 小5	小2 園児
（２）望ましい食習慣を身に付け、過度な痩身と肥満や生活習慣病の予防	⑫生活習慣病（※2）の認知度を増やす	当初値（H30）				
		目標値（R5）				
		現状値（R5）	81.7%	92.1%		
		評価	D	D		
	⑬自分の適正体重を維持する食事量を理解し実践している人の割合を増やす	当初値（H30）	23.0%			
		目標値（R5）	40.0%			
		現状値（R5）	30.2%			
		評価	B			
	⑭よく噛んで食事をする人の割合を増やす	当初値（H30）	43.2%	38.8%	47.3%	35.2%
		目標値（R5）	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
		現状値（R5）	54.5%	65.7%	65.3%	76.7%
		評価	A	A	A	A
（３）食の安全についての関心や知識の向上	⑮買い物時に食品表示を必ず確認する人の割合を増やす	当初値（H30）	58.3%	31.5%		
		目標値（R5）	70.0%	50.0%		
		現状値（R5）	56.2%	37.5%		
		評価	C	B		

※2　前回計画策定時は「メタボリックシンドローム」の認知度について調査を行いましたが、認知度が９割程度だったことや、愛知県の計画では肥満や過度な痩身・生活習慣病について言及していたことから、今回は疾患の総称である「生活習慣病」に変更し認知度の調査を行いました。そのため、当初値（H30）と目標値（R5）が斜線となっており、今回のアンケート結果の提示のみとなっています。

① 朝食の欠食状況

朝食の欠食状況と就寝時間をみると、小学２年生、園児では午後９時台以前に比べ午後 10 時台以降で朝食の欠食者の割合が高くなっています。小学５年生、中学２年生では就寝時間が遅くなるほど朝食の欠食者の割合が高く、高校生においては午前０時より遅い就寝時間で欠食者の割合が高くなっています。

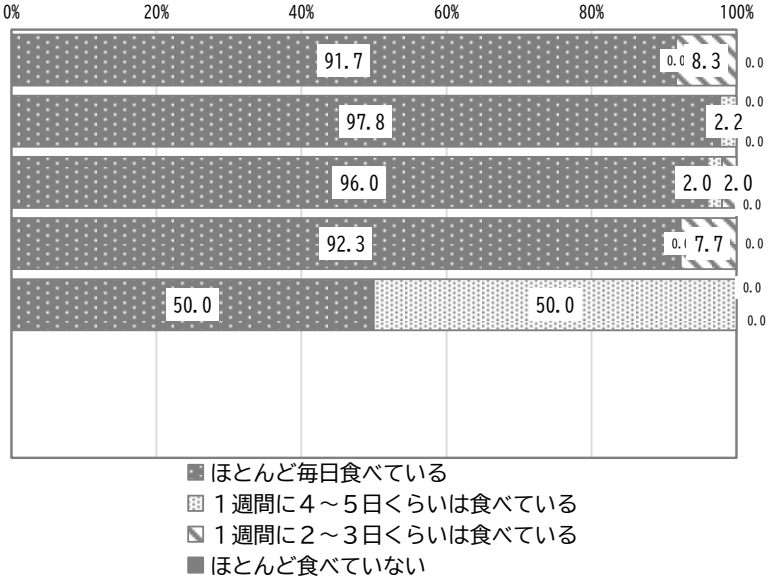
朝食の欠食理由として、「時間がないから」の割合も高くなっており、就寝時間が遅くなると、起床時間が遅くなることも考えられ、規則正しい生活を送り、「早寝早起き朝ごはん」を実践していく必要があります。

朝食の欠食状況と就寝時間について

＜小学２年生、園児＞

（就寝時間の状況）

	回答者数＝
午後８時より早い	12
午後８時台	45
午後９時台	100
午後10時台	13
午後11時台	2
午後12時より遅い	0
決まっていない	0



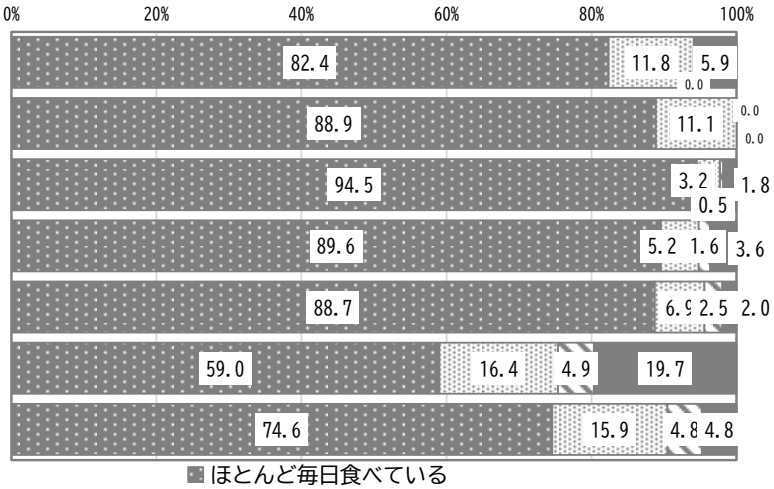
■ほとんど毎日食べている
▩１週間に４～５日くらいは食べている
▨１週間に２～３日くらいは食べている
■ほとんど食べていない

（朝食の摂取状況）

＜小学５年生、中学２年生＞

（就寝時間の状況）

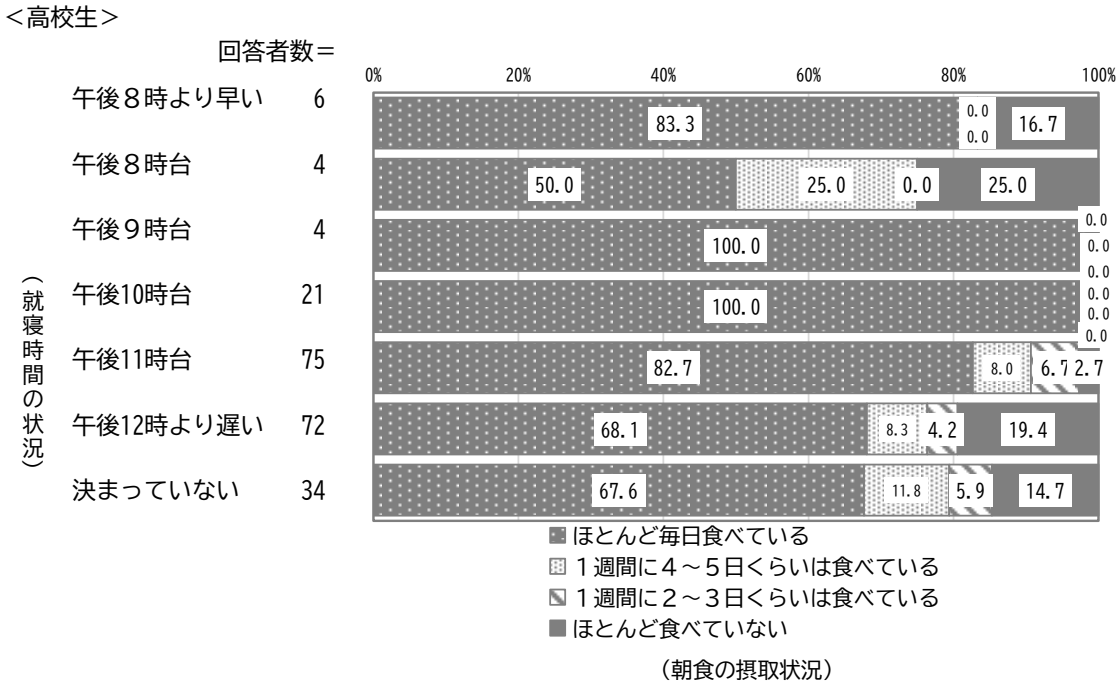
	回答者数＝
午後８時より早い	17
午後８時台	27
午後９時台	220
午後10時台	249
午後11時台	204
午後12時より遅い	61
決まっていない	63



■ほとんど毎日食べている
▩１週間に４～５日くらいは食べている
▨１週間に２～３日くらいは食べている
■ほとんど食べていない

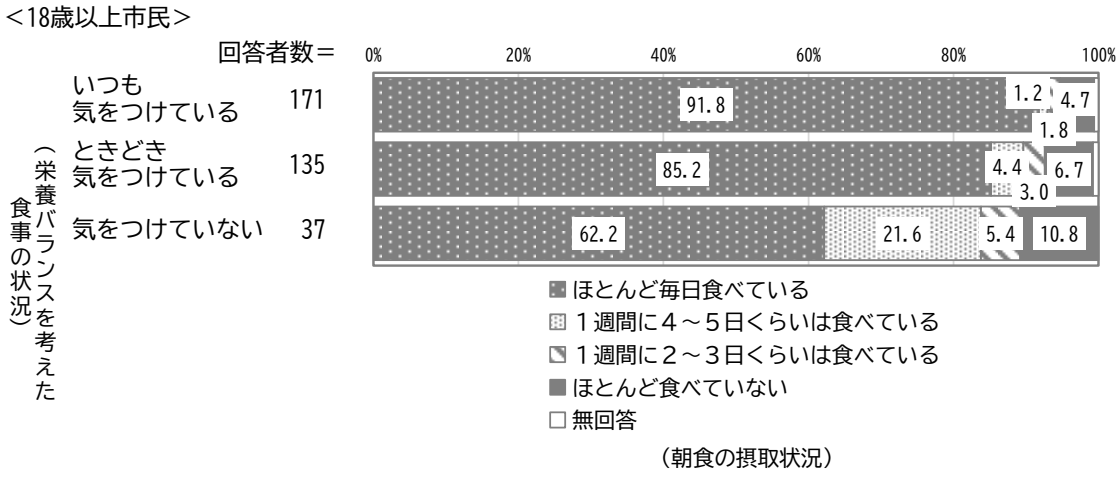
（朝食の摂取状況）

朝食の欠食状況と就寝時間について



朝食の欠食状況と栄養のバランスを考えた食事の状況をみると、栄養のバランスに気を付けている人ほど、朝食を摂取している人の割合が高くなっています。栄養バランス等、食事に対する意識を高めるとともに、朝食の摂取等の実践を促進していく必要があります。

朝食の欠食状況と栄養のバランスを考えた食事の状況について

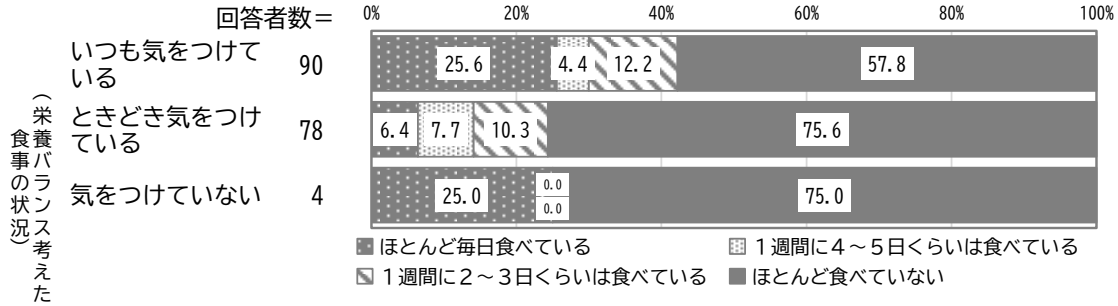


②朝食における野菜の摂取状況

朝食の野菜摂取頻度と栄養バランスを考えた食事の状況をみると、栄養バランスを考えた食事に気を付けている人ほど、朝食において野菜を摂取している頻度が高くなっています。栄養バランス等、食事に対する意識を高めるとともに、朝食での野菜摂取等の実践を促進していく必要があります。

朝食の野菜摂取頻度と栄養バランスを考えた食事の状況について

<小学２年生、園児>

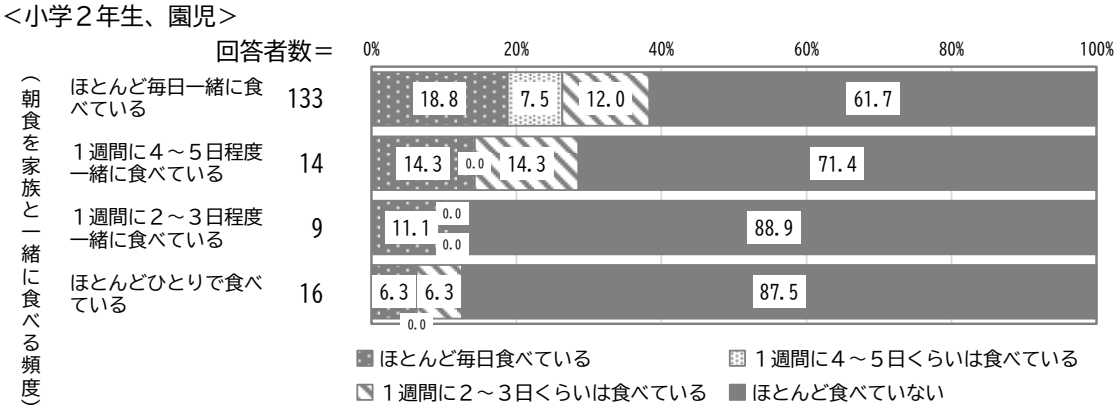


（朝食の野菜摂取頻度）

朝食の野菜摂取頻度と朝食を家族と一緒に食べる頻度をみると、朝食を家族と一緒に食べる頻度が多いほど、朝食において野菜を摂取している頻度が高くなっています。朝食等、家族と一緒に食べることで、食事のマナーや料理についての関心が高くなり、野菜をはじめ、様々な栄養も摂りやすく、楽しく、おいしく食べることができます。そのため、朝食を含め、家族と一緒に食べる機会を増やし、野菜など栄養バランスのとれた食生活を促進していくことが重要です。

朝食の野菜摂取頻度と朝食を家族と一緒に食べる頻度について

<小学２年生、園児>

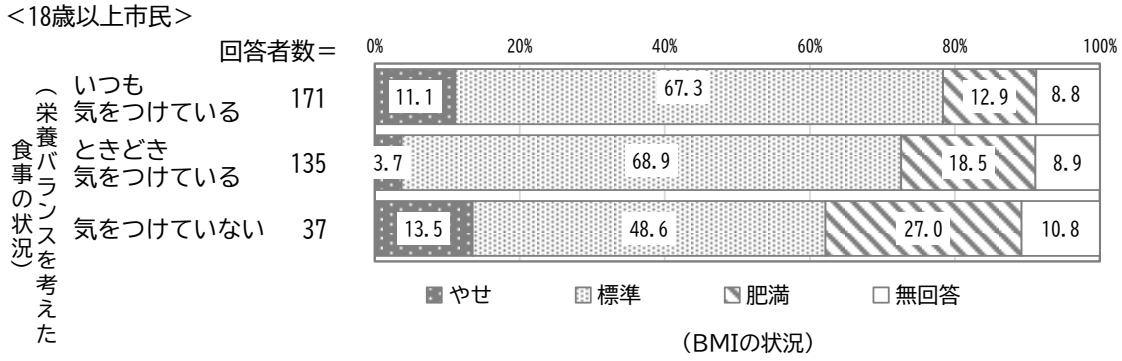


（朝食の野菜摂取頻度）

③栄養バランスを考えた食事の状況とBMIの状況

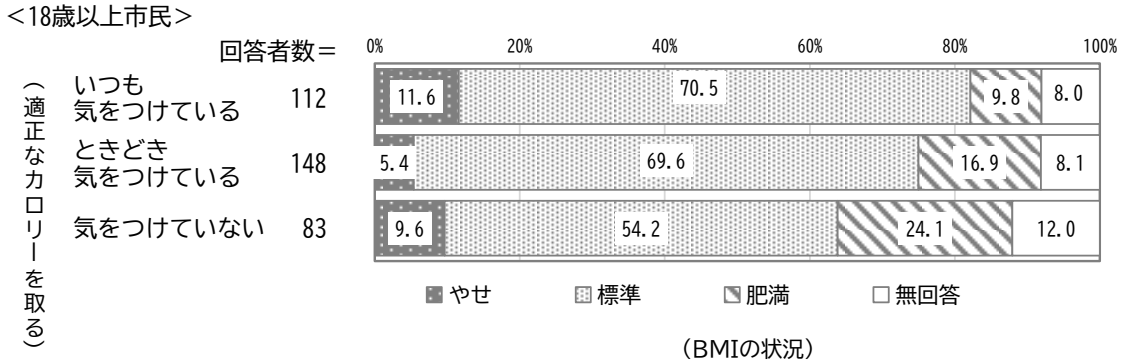
栄養バランスを考えた食事の状況とＢＭＩの状況をみると、栄養バランスを考えた食事に気を付けている人で、ＢＭＩの標準の割合が高くなっています。気を付けていない人ほど肥満の割合が高くなっており、普段から栄養バランスを考えた食事に気を付けることで、食生活が改善し、肥満等、生活習慣病予防にもつながることが考えられ、栄養に関する正しい知識を身に付け、栄養バランスを意識した食生活を実践していくことが重要です。

栄養バランスを考えた食事の状況とＢＭＩの状況について



適正なカロリーの摂取とＢＭＩの状況をみると、適正なカロリーをとることに気を付けている人ほど、ＢＭＩの標準の割合が高くなっています。適正な食事量を知り、栄養成分表等を活用しながら、健康的な食生活を行うことが重要です。

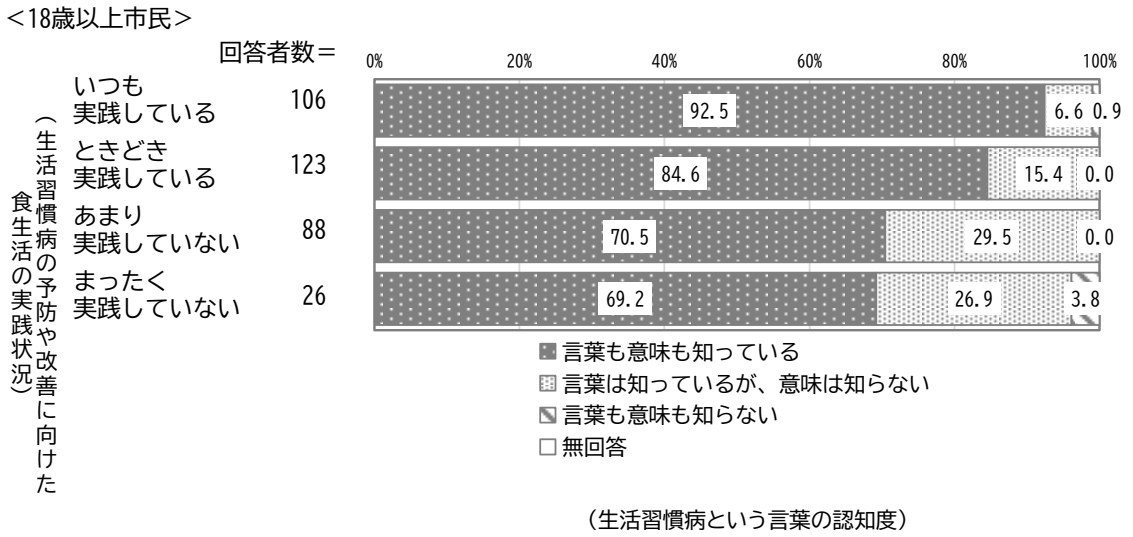
栄養バランスを考えた食事の状況とＢＭＩの状況について



④生活習慣病の認知度

生活習慣病の認知度と生活習慣病の予防や改善に向けた食生活の実践状況をみると、生活習慣病の予防や改善に向けた食生活を実践している人ほど、生活習慣病の認知度が高くなっています。生活習慣病とは食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称で、内臓脂肪型肥満や高血糖、高血圧、脂質異常などからがんや心臓病、脳卒中へつながるリスクがある状態であり、こうした知識を知っている人ほど、生活習慣病予防に向けた取組を実践していることが考えられます。食生活と生活習慣病のつながりを認識し、意識を高めていくことが重要です。

生活習慣病の認知度と
生活習慣病の予防や改善に向けた食生活の実践状況について



（生活習慣病という言葉の認知度）

基本目標３　～環境づくり～　食に関する環境を整えます

無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合は目標を達成しており、環境にやさしい食生活や活動が進んでいることがうかがえます。また、地元食材をいつも購入するように努めている人の割合は改善しており、「いつも購入するようにしている」人の割合だけでなく、「ときどき購入するようにしている」人の割合も増加しており、地産地消の意識が高まっていることがうかがえます。

基本施策	目標項目	種類	18歳以上	高2	中2 小5	小2 園児
（１）環境にやさしい食生活や活動の推進	⑯無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合を増やす	当初値（H30）	50.1%			
		目標値（R5）	60.0%			
		現状値（R5）	61.2%			
		評価	A			
（２）地産地消の推進	⑰地元食材をいつも購入するように努めている人の割合を増やす	当初値（H30）	11.5%			
		目標値（R5）	30.0%			
		現状値（R5）	13.0%			
		評価	B			
	⑱保育園・学校給食における地場産物を利用する割合を増やす	当初値（H30）	36.0%			
		目標値（R5）	40.0%			
		現状値（R5）	38.9%			
		評価	B			

第４次みよし市食育推進計画

<table>
<tr><th rowspan="2">【国】第４次食育推進基本計画
（令和３年度からおおむね５か年）</th><th rowspan="2">【県】あいち食育いきいきプラン2025
（令和３年度から令和７年度まで）</th><th colspan="3">【市】第４次みよし市食育推進計画（案）
（令和６年度から令和１０年度まで）</th></tr>
<tr><th>基本理念（案）
第３次みよし市食育推進計画の評価</th><th>基本目標</th><th>基本施策（案）</th></tr>
<tr><td>食育の推進に関する施策についての基本的な方針</td><td>食育の実施による健康で活力のある社会の実現</td><td colspan="3">食を通した人づくり、環境づくり、健康づくり</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点課題
⑴生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
⑵持続可能な食を支える食育の推進
（食と環境の調和：環境の環（わ））
（農林水産業や農山漁村を支える多様な主体とのつながりの深化：人の輪（わ））
（日本の伝統的な和食文化の保護・継承：和食文化の和（わ））
⑶「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

基本的な取組方針
⑴国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成
⑵食に関する感謝の念と理解
⑶食育推進運動の展開
⑷子供の食育における保護者、教育関係者等の役割
⑸食に関する体験活動と食育推進活動の実践
⑹我が国の伝統的な食文化、環境と調和した生産等への配慮及び農山漁村の活性化と食料自給率の向上への貢献
⑺食品の安全性の確保等における食育の役割</td><td>1. 食を通じて健康な体をつくる取組
⑴ライフバランスに即したバランスのとれた食生活の実施
⑵生活習慣病予防や適性体重維持の推進
⑶食の安全・安心に関する信頼の構築</td><td>基本目標１
～人づくり～
食の大切さや、楽しさが分かる心豊かな人を育てます
「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする人の割合は増加しています。また、農作物の栽培体験では18歳以上、高2、小2・園児で、料理教室（料理の手伝い）については、18歳以上、高2で改善がみられました。</td><td>基本目標１
～人づくり～
食の大切さや、楽しさが分かる心豊かな人を育てます</td><td>⑴食の正しい知識を身に付け、食に対する感謝の心を持つ豊かな人間性の育成
⑵楽しい食事の場づくりの大切さを周知
⑶農作物の栽培や料理教室など、体験型の学習や交流を通じた食への理解促進
⑷食文化や郷土料理等の理解と継承
⑸食育を広めるための人材育成や関係者との連携強化
⑹食育に関する情報提供や普及啓発</td></tr>
<tr><td>2. 食を通じて豊かな心を育む取組
⑴食を楽しむゆとりの積極的な確保
⑵体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進
⑶日本の食文化や郷土料理等の理解や継承</td><td>基本目標２
～健康づくり～
食を通じて、健康な体を育みます
朝食の欠食は18歳以上では改善が見られましたが、学齢期は悪化しています。朝食における野菜の摂取、食事の栄養バランスに気を付けるなど、バランスのとれた食生活については改善傾向にあります。また、適性体重を維持する食事量の理解やよく噛んで食べる、食の安全に関する項目は改善しています。特によく噛んで食べることは目標値を達成しました。
日頃の食生活の乱れや栄養の偏りは、肥満や生活習慣病の一因となっており、バランスのとれた食生活を送ることが重要です。</td><td>基本目標２
～健康づくり～
食を通じて、健康な体を育みます</td><td>⑴バランスのとれた食生活の実施
⑵生活習慣病や適切体重維持の推進
⑶食の安全についての関心や知識の向上</td></tr>
<tr><td>3. 食を通じて環境にやさしい暮らしを築く取組
⑴食生活における環境への配慮の徹底
⑵農林水産業への理解と地産地消の推進
⑶農林水産業や食品関連産業における環境への配慮の徹底</td><td>基本目標３
～環境づくり～
　食に関する環境を整えます
無駄や破棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合は目標を達成しており、環境にやさしい食生活や活動が進んでいることがうかがえます。また、地元食材をいつも購入するよう努めている人の割合は改善しており、「いつも購入するようにしている」人の割合だけでなく、「ときどき購入するようにしている」人の割合も増加しており、地産地消の意識が高まっていることがうかがえます。</td><td>基本目標３
～環境づくり～
食に関する環境を整えます</td><td>⑴環境にやさしい食生活や活動の推進
⑵地産地消の推進</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">変更点
●国は「SDGsアクションプラン2019」において、国連サミットで採択されたSDGsに係る「あらゆる人々が活躍する社会」の実現に向けた「次世代の教育振興」施策として、2018年12月に「食育の推進」を位置づけました。
第４次みよし市食育推進計画では、１７の目標を基本施策に当てはめ、SDGsの達成に貢献する食育の取組を推進していきます。

●『カーボンニュートラル』とは、温室効果ガスの排出量と吸収量を全体として差し引きをゼロにすることを意味します。市では、令和元（2019）年12月に「ゼロカーボンシティ宣言」（地球温暖化の主な原因の一つである二酸化炭素について、令和32（2050）年までに市内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す）を表明しました。
「基本目標３～環境づくり～食に関する環境を整えます」において、食を通じたカーボンニュートラルの取組をとりまとめ、カーボンニュートラルの実現に貢献する食育の取組を推進していきます。</td></tr>
</table>